

わーく&らifu

令和2年12月24日 進路指導部 発行

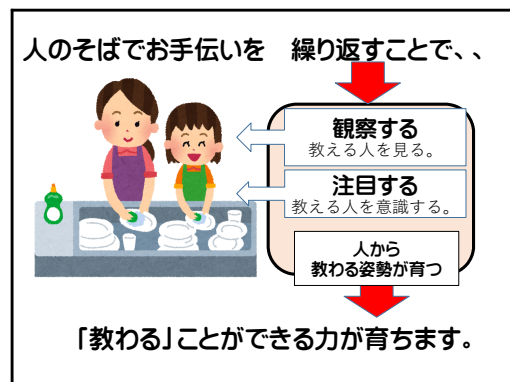
■CONTENTS■

★年末年始大作戦 ～親子一緒に活動で「教わる」力をアップ！～

明日から冬休み、そして年末年始。「大掃除」や「片付け」など、この時期ならではの年中行事もあります。ご家族の皆様も年末年始休暇で、いつもより余裕をもってお子様と向き合い、ともに活動できる時期ではないでしょうか。

今回の「わーく&らifu」では、親（家族）子で一緒に取り組む活動の、大きな意味について解説します。

■親や家族と「一緒にする」が育む重要な力



左図をご覧ください。人と「一緒にする」ことが、学びの力（「教わる」ことのできる力）アップにつながることを表しています。

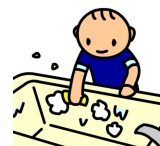
「教わる」ということは、手本を見て（注目）、真似をしながら（模倣）行動し、その時間を相手に合わせる（協調）ことを学ぶということです。このことは、学習のための重要なスキルですので、いろいろな事の基本です。また、教わる相手が、お母さんだったり、お父さんだったり、ときにはきょうだいだったり、協調できる相手が変わることも大切な学びとなります。「一緒にする」行為は、「お手伝い」に限らず、お子様との時間の中に、いろいろな場面があります。たとえば、絵本の読み聞かせ、運動、ものづくりなどにも、「観察する」「注目する」場面が必ずあり、同様の効果があると考えられます。

年末年始の余裕の時間を使って、ぜひいろいろな活動にチャレンジしてみてください。手伝いなら、まずは、お子様の興味のある活動から親子で（家族と一緒に）始めるとよいでしょう。

次に年末年始大作戦に当たった際の取組のポイントをご提案します。

◆ポイント1 「冬休みのスケジュール・目標づくりからスタート」

冬休み初日にやりたいことは「スケジュールと目標づくり」です。できればお子様も交えた話し合いで目標と日課表を作りましょう。これは本校が大切にしている「決める力」を育むためのポイントでもあります。起床時間や活動の順序など1日のスケジュールを具体的に決めておきましょう。



◆ポイント2 「いつも通りに」

大作戦といっても、特別なことに取り組む必要はありません。いつもどおりの一連の家事（ゴミ出し、新聞を取る、朝ご飯の支度、片付け、洗い物、掃除・洗濯等々）を、お子様と一緒にやってみましょう。



年末恒例の「大掃除」は日本人としての文化を教える機会でもあります。お子様自身の場所や物の片付け・整理あるいは断捨離を通して、身の回りの4S（「整理」「整頓」「清掃」「清潔」）を体感させましょう。

◆ポイント3 「あいさつも重点的に」

年末年始は親類など集まる機会が多く、あいさつの機会がたくさんある時期です。大人が率先してよいお手本を見せましょう。マスク着用など、感染予防は引き続きお願いします。



◆ポイント4 「ほめ言葉のシャワーを」

人が成長するためには、周囲からほめられる（認められる）ことが欠かせません。認められることで、自分自身を肯定的に見ることができるようになります。親子で取り組む中で、できたことを、できたぶん（大げさでもいいから）しっかり認め、ほめてあげましょう。「ありがとう！たすかったよ。」「きれいになって嬉しい。」など、家族の一員としての自分を意識できるように、お子さんにわかる伝え方で感謝の気持ちを伝えましょう！



◆ポイント5 がんばった分と評価（報酬）の結びつけ

お手伝いとお礼の結びつけにも取り組みましょう。「これをがんばったから、〇〇円のお小遣い」「冬休みに毎日〇〇できたら〇〇」という具合です。ごほうびのあげ方も、お子様によっては毎回あげる、シール（トークンシステム）をためる、お小遣い日（給料日）を決めて社会生活に近づけるなどの工夫ができます。どうぞお子様にあったやり方で取り組んでください。



編集後記

親子一緒に活動には、更に大きな意味があります。それは、活動を通じて愛着関係が深まるということです。そして身近な人との愛着（信頼関係）は、将来出会う人たちとの共感・愛着などの感情や行動へとつながりよりよい人間関係を構築する力になります。年末年始、お子様とよい時間をお過ごしください。（高等部 谷口）